



# **NAS**ストレージの有効化

## ONTAP 9

NetApp  
February 12, 2026

# 目次

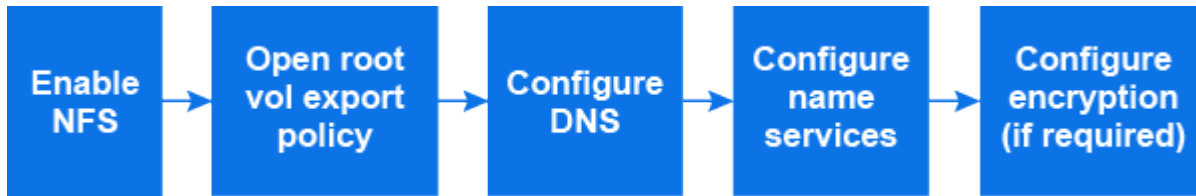
NASストレージの有効化 .....	1
ONTAP System ManagerでNFSを使用してLinuxサーバー用のNASストレージを有効にする .....	1
ONTAP System ManagerでSMBを使用してWindowsサーバのNASストレージを有効にする .....	2
ONTAP System Managerで NFS と SMB の両方を使用して Windows と Linux の両方で NAS ストレージを有効にする .....	3

# NASストレージの有効化

## ONTAP System ManagerでNFSを使用してLinuxサーバー用のNASストレージを有効にする

Linuxクライアントにデータを提供するために、Storage VMを作成または変更してNFSサーバを有効にします。




この手順を使用して、新規または既存のStorage VMでNFSプロトコルを有効にできます。




開始する前に

環境に必要なネットワーク、認証、セキュリティのサービスについて、設定の詳細を忘れないようにメモしておきます。

手順


1. Storage VMでNFSを有効にします。
  - 新しいストレージ VM の場合：ストレージ > ストレージ **VM** をクリックし、追加 をクリックして、ストレージ VM 名を入力し、**SMB/CIFS**、**NFS**、**S3** タブで **NFS** を有効にする を選択します。
    - i. デフォルトの言語を確定します。
    - ii. ネットワーク インターフェイスを追加します。
    - iii. Storage VMの管理者アカウントの情報を更新します（オプション）。
  - 既存のストレージ VM の場合：ストレージ > ストレージ **VM** をクリックし、ストレージ VM を選択して 設定 をクリックし、**NFS** の下にある  をクリックします。
2. Storage VMルート ボリュームのエクスポート ポリシーを開きます。
  - a. [ストレージ] > [ボリューム]\*をクリックし、**Storage VM**のルート ボリューム（デフォルトでは **\_volume-name\_\_root**）を選択して、[エクスポート ポリシー]\*に表示されるポリシーをクリックします。
  - b. \*[追加]\*をクリックしてルールを追加します。
    - クライアント仕様 = 0.0.0.0/0
    - アクセス プロトコル = NFS
    - アクセスの詳細 = UNIX読み取り専用
3. ホスト名解決用の DNS を構成します：ストレージ > ストレージ **VM** をクリックし、ストレージ VM を選択して、設定 をクリックし、**DNS** の下の  をクリックします。
4. ネーム サービスを必要に応じて設定します。
  - a. ストレージ > ストレージ **VM** をクリックし、ストレージ VM を選択して、設定 をクリックし、

LDAP または NIS の をクリックします。

b. 「ネーム サービス スイッチ」 タイルの  をクリックして、変更を含めます。

5. 必要に応じて、Kerberosを設定します。

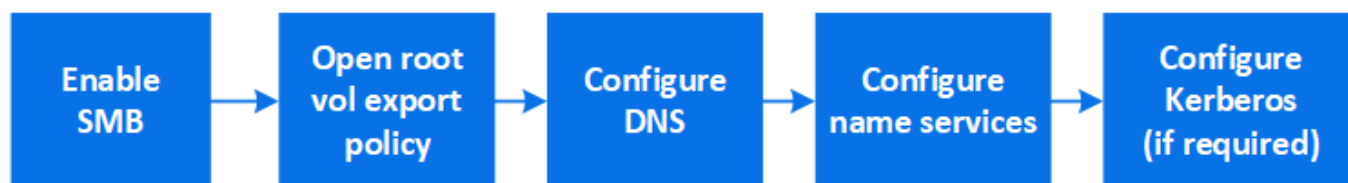
a. **[ストレージ] > [Storage VM]\*** をクリックし、**Storage VM** を選択して **[設定]\*** をクリックします。

b. Kerberos タイルの  をクリックし、**\* Add \*** をクリックします。

## ONTAP System ManagerでSMBを使用してWindowsサーバのNASストレージを有効にする

Windowsクライアントにデータを提供するために、Storage VMを作成または変更してSMBサーバを有効にします。

この手順では、新規または既存のStorage VMでSMBプロトコルを有効にします。環境に必要なネットワーク、認証、セキュリティのサービスについて、詳細な設定を把握しておく必要があります。



### 手順

1. Storage VMでSMBを有効にします。

a. 新しいストレージVMの場合：**\*ストレージ > ストレージVM\*** をクリックし、**\*追加\*** をクリックして、ストレージVM名を入力し、**\*SMB/CIFS、NFS、S3\*** タブで **\*SMB/CIFSを有効にする\*** を選択します。

▪ 次の情報を入力してください：

- 管理者の名前とパスワード
- サーバ名
- Active Directory ドメイン


▪ 組織単位を確定します。

▪ DNS値を確定します。

▪ デフォルトの言語を確定します。

▪ ネットワーク インターフェイスを追加します。

▪ Storage VMの管理者アカウントの情報を更新します（オプション）。

b. 既存のストレージ VM の場合：**ストレージ > ストレージ VM** をクリックし、ストレージ VM を選択して **設定** をクリックし、**SMB** の下の  をクリックします。


2. Storage VMルート ボリュームのエクスポート ポリシーを開きます。

a. **[ストレージ] > [ボリューム]\*** をクリックし、**Storage VM** のルート ボリューム（デフォルトでは **\_volume-name\_root\_**）を選択して、**[エクスポート ポリシー]\*** に表示されるポリシーをクリックします。



b. **\*[追加]\*** をクリックしてルールを追加します。

- クライアント仕様 = 0.0.0.0/0
- アクセス プロトコル = SMB
- アクセスの詳細 = NTFS読み取り専用


3. ホスト名解決に使用するDNSを設定します。

- ストレージ > ストレージ **VM** をクリックし、ストレージ VM を選択して、設定 をクリックし、**DNS** の下の  をクリックします。
- DNSサーバに切り替えてSMBサーバをマッピングします。
  - フォワード ルックアップ (A - アドレス レコード) とリバース ルックアップ (PTR - ポインタ レコード) のエントリを作成して、SMBサーバ名をデータ ネットワーク インターフェイスのIPアドレスにマッピングします。
  - NetBIOSエイリアスを使用する場合は、エイリアスの正規名 (CNAMEリソース レコード) のルックアップ エントリを作成して、各エイリアスをSMBサーバのデータ ネットワーク インターフェイスのIPアドレスにマッピングします。

4. ネーム サービスを必要に応じて設定します。

- ストレージ > ストレージ **VM** をクリックし、ストレージ VM を選択して、設定 をクリックし、**LDAP** または **NIS** の下の  をクリックします。
- 名前サービス スイッチ ファイルに変更内容を含めます (\*名前サービス スイッチ\*の下の  をクリック)。

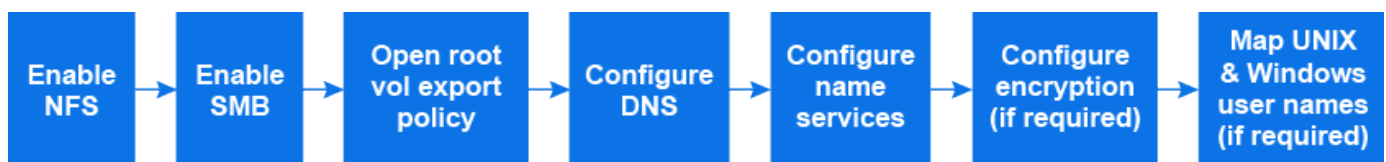
5. 必要に応じて、Kerberosを設定します。

- [ストレージ] > [Storage VM]\*をクリックし、**Storage VM**を選択して[設定]\*をクリックします。
- \*Kerberos\*の下にある  をクリックし、\*追加\*をクリックします。

## ONTAP System Managerで NFS と SMB の両方を使用して Windows と Linux の両方で NAS ストレージを有効にする

LinuxおよびWindowsクライアントにデータを提供するために、Storage VMを作成または変更してNFSサーバとSMBサーバを有効にします。

この手順を使用して、新規または既存のStorage VMでNFSとSMBの両方のプロトコルに対応できるようにします。








開始する前に

環境に必要なネットワーク、認証、セキュリティのサービスについて、設定の詳細を忘れないようにメモしておきます。

手順

1. Storage VMでNFSとSMBを有効にします。

- a. 新しいストレージ VM の場合：ストレージ > ストレージ **VM** をクリックし、追加 をクリックしてストレージ VM 名を入力し、**SMB/CIFS**、**NFS**、**S3** タブで **SMB/CIFS** を有効にすると **NFS** を有効にするを選択します。
  - b. 次の情報を入力してください：
    - 管理者の名前とパスワード
    - サーバ名
    - Active Directoryドメイン
  - c. 組織単位を確定します。
  - d. DNS値を確定します。
  - e. デフォルトの言語を確定します。
  - f. ネットワーク インターフェイスを追加します。
  - g. Storage VMの管理者アカウントの情報を更新します（オプション）。
  - h. 既存のストレージVMの場合：\*ストレージ > ストレージVM\*をクリックし、ストレージVMを選択して\*設定\*をクリックします。NFSまたはSMBがまだ有効になっていない場合は、以下のサブ手順を実行してください。
    - \*NFS\*の下にある  をクリックします。
    - \*SMB\*の下  をクリックします。
2. Storage VMルート ボリュームのエクスポート ポリシーを開きます。
    - a. [ストレージ] > [ボリューム]\*をクリックし、**Storage VM**のルート ボリューム（デフォルトでは **\_volume-name\_root\_**）を選択して、[エクスポート ポリシー]\*に表示されるポリシーをクリックします。
    - b. \*[追加]\*をクリックしてルールを追加します。
      - クライアント仕様 = 0.0.0.0/0
      - アクセス プロトコル = NFS
      - アクセスの詳細 = NFS読み取り専用
3. ホスト名解決に使用するDNSを設定します。
    - a. ストレージ > ストレージ **VM** をクリックし、ストレージ VM を選択して、設定 をクリックし、**DNS** の下の  をクリックします。
    - b. DNSの設定が完了したら、DNSサーバに切り替えてSMBサーバをマッピングします。
      - フォワード ルックアップ（A - アドレス レコード）とリバース ルックアップ（PTR - ポインタ レコード）のエントリを作成して、SMBサーバ名をデータ ネットワーク インターフェイスのIPアドレスにマッピングします。
      - NetBIOSエイリアスを使用する場合は、エイリアスの正規名（CNAMEリソース レコード）のルックアップ エントリを作成して、各エイリアスをSMBサーバのデータ ネットワーク インターフェイスのIPアドレスにマッピングします。
4. 必要に応じて名前サービスを設定します：
    - a. ストレージ > ストレージ **VM** をクリックし、ストレージ VM を選択して、設定 をクリックし、LDAP または NIS の  をクリックします。
    - b. 名前サービス スイッチ ファイルに変更内容を含めます（\*名前サービス スイッチ\*の下の  をクリッ

ク)。

5. 必要に応じて、Kerberosを設定します。

- a. [ストレージ] > [Storage VM]\*をクリックし、**Storage VM**を選択して[設定]\*をクリックします。
- b. Kerberos タイルの → をクリックし、\* Add \* をクリックします。

6. 必要に応じて UNIX および Windows ユーザー名をマップします：\*名前マッピング\*の下の → をクリックし、\*追加\*をクリックします。

この手順は、WindowsとUNIXのユーザ アカウントが暗黙的にマッピングされない場合にのみ使用します。小文字のWindowsユーザ名がUNIXユーザ名と一致していれば、ユーザ名は暗黙的にマッピングされます。ユーザ名は、LDAP、NIS、またはローカル ユーザを使用してマッピングできます。一致しない2組のユーザ セットがある場合、ネーム マッピングを設定する必要があります。

## 著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。